

芸劇ウインド・オーケストラ・アカデミー 第5回演奏会

下野竜也が勇躍初登場 声楽との初共演も実現

芸劇ウインド・オーケストラ・アカデミーは、東京芸術劇場が2014年に開始したプロフェッショナル管打楽器奏者育成プロジェクト。演奏技術の向上はもとより、キャリアアップ・ゼミなど多角的な研鑽を重ねた上で年度末の演奏会に臨んでいる。昨年度からは少数精鋭の布陣となり、演奏会はレッスンを受け持つ東京佼成ウインドオーケストラとの共演で開催。5回目を迎える今年度も、20名のアカデミー生が斯界トップ楽団の奏者と共に練磨した音楽を聴かせる。

今回の指揮は、アカデミー発足時から3年間ゼミの講師を務めた下野竜也。広島ウインドオーケストラの音楽監督でもある彼こだわりのプログラムが用意されている。まず全体は、下野が力を注ぐ「芸術性の高い邦人オリジナル曲」が主軸。毎回話題の委嘱作も、今回から「ハルモニウムジークプロジェクト」と銘打ってモーツァルトなどが好んだ小編成サウンドの新たな方向性を追求し、1年目は数々の賞に輝く酒井健治の新作が披露される。また後半



©Hikaru.17

は「偉人の言葉」をテーマにした作品。キング牧師のスピーチに因んだ長生淳の「I still have a dream」がアカデミー生の夢と重ねられ、ヘレン・ケラーの言葉を用いたキャンプハウスの大作「アイヴィーグリーンからの交響曲」では、聴衆にとっても貴重な声楽との共演が実現する。

今年度は、池袋を中心に、都内各所で行うアンサンブル・コンサート「街角LIVE!」の機会が加わり、メンバーも例年以上に実践経験を積んでいる。1年の集大成たる公演に大いに期待したい。

文：柴田克彦（音楽評論家）

3月1日(金) 詳細はP15へ
19:00開演 コンサートホール

指揮：下野竜也 ソプラノ：木下美穂子
吹奏楽：芸劇ウインド・オーケストラ・アカデミー
東京佼成ウインドオーケストラ



©Naoya Yamaguchi ©Yoshinobu Fukayaaura.12

芸劇&読響 0才から聴こう!! / 4才から聴こう!! 春休みオーケストラ コンサート

お子さんと生演奏に触れ、 心豊かに春を迎えよう

赤ちゃんもお子さんもパパ・ママも、ご家族みんなで本格的なオーケストラを楽しめるのが、東京芸術劇場と読売日本交響楽団による「春休みオーケストラコンサート」だ。春の恒例企画として人気を集めるこのコンサートは、午前は「0才から」、午後は「4才から」と、お子さんの年齢によって公演が分けられているのが特徴。赤ちゃんを抱いた親御さんにも、すこしお兄さんお姉さんになった4才以上のお子さんたちも、ゆっくりと生のオーケストラの響きを体感していただきたい。今年は指揮者に、自身も2才の女の子のパパ・鈴木優人が登場する。

午前も午後も約50分、お子さんたちは飽きずに聴けて、大人たちも満足できるプログラムをご用意。オープニングは元気な『カルメン』前奏曲。J.S.バッハのトッカータ(BWV565より)は、もともとはオルガン曲。まずは冒頭をホールのパイプオルガンで鈴木優人自らが演奏。さらにオーケストラ・バージョンで演奏されるので、響きの違いを体感してほしい。「ドレミの歌」でおなじみの『サウンド・オブ・ミュージック』メドレーなど、華やかで親しみやすい



©Hikaru.17

ナンバーも並ぶ。そして今年からは、「0才から」と「4才から」で、一部曲目を変えてお届け。オーケストラと一緒に歌えるような、人気ソングも飛び出す予定だ。さらに、第16回東京音楽コンクール金管部門第1位の三村梨紗がソリストとして登場！華麗なる演技をたっぷりと披露してくれることだろう。

会場はベビーカー置き場や授乳スペースも完備。初めてのご家族も、気楽にコンサート・デビューを飾ろう。

文：飯田有抄（クラシック音楽ファシリテーター）

3月27日(水) 詳細はP16へ
コンサートホール
11:30開演(0才から入場可) /
13:30開演(4才から入場可)

指揮：鈴木優人 管弦楽：読売日本交響楽団
トランペット：三村梨紗 ほか



©Marco Borggreve

東京芸術劇場&ミュゼザ川崎シンフォニーホール共同企画

第8回

音楽大学フェスティバル・オーケストラ

若い情熱が、コバケンの炎で燃え上がる

首都圏にある9つの音楽大学のオーケストラが、それぞれに演奏を聴かせてくれる「音楽大学オーケストラ・フェスティバル」は、それに各大学の校風が表れていて、その違いが味わえる楽しい企画。水準も申し分なく「聴かせる」演奏となっているのも魅力だ。その特別編として、各大学の選抜メンバーで構成されるのが、この「音楽大学フェスティバル・オーケストラ」。2016年から地方の音楽大学も加わり、今回は北海道と沖縄の学生が参加する。腕に自信のある学生たちが、しのぎを削りながらも力を合わせてひとつの音楽を作り上げていく姿は、それだけでも感動的だ。

幼い頃から研鑽を重ねてきた音大生たちの演奏には、音楽する純粋な喜びがある。彼らとの共演を「心が躍っている」と楽しみにしているのは、日本が世界に誇る名指揮者・小林研一郎。情熱的な指揮で「炎のコバケン」とも呼ばれる彼が選んだのは、燃焼度の高い3作品。彼自身も得意とするレパートリーだ。

最初の2つ「ローマの謝肉祭」(ペルリオーズ)と「1812年」(チャイコフス



小林研一郎

©山本倫子

キー)は、祝祭的な気分を大いに盛り上げてくれる力強い作品。学生たちの爆発する若いパワーを感じられるはずだ。続く「幻想交響曲」(ベルリオーズ)も、絢爛豪華なオーケストレーションによって聴き手を圧倒する作品。特に管楽器奏者の技量も問われるが、今回も期待以上の演奏となるに違いない。将来を嘱望される学生たちの意気込みも、しっかりと受け取りたい。

文：堀江昭朗(音楽ライター)

3月30日(土) 15:00開演 コンサートホール 詳細はP16へ
3月31日(日) 15:00開演 カルッツかわさき(川崎市スポーツ・文化総合センター)
指揮：小林研一郎 管弦楽：音楽大学フェスティバル・オーケストラ
(首都圏9音楽大学+北海道&沖縄2音楽大学 選抜オーケストラ)

[参加音楽大学] 上野学園大学、国立音楽大学、昭和音楽大学、洗足学園音楽大学、東京音楽大学、東京藝術大学、東邦音楽大学、桐朋学園大学、武蔵野音楽大学、札幌大谷大学(北海道)、沖縄県立芸術大学(沖縄)

大和証券グループ presents 辻井伸行 日本ツアー《ドビュッシー・ラヴェル・ショパン》

2月22日(金) 14:00開演 コンサートホール

詳細はP14へ



辻井伸行

©Yuji Hori

印象派の名作とショパンの代表作に挑む、待望のソロ・リサイタル

辻井伸行の2018/19シーズン日本ツアーは、《ドビュッシー・ラヴェル・ショパン》と題し、自身の得意とする印象派とショパンを取り上げる。前半は、ドビュッシーの「2つのアラベスク」「映像 第1集」とラヴェルの「ソナチネ」を披露。辻井の超絶技巧ときらめくような響きが、色鮮やかに繊細な名曲を彩る。後半は、ショパンの「スケルツォ」全曲演奏に挑む。時に激しく時に柔らかな美しいショパンの傑作を、辻井ならではの迫真の演奏で堪能できる、素晴らしい時間となるだろう。抜群の人気と評価を誇る辻井伸行の待望のソロ・リサイタルを、どうぞお聴き逃しなく!

ピアノ：辻井伸行

【お問合せ】チケットスペース 03-3234-9999

アマデウスLIVE シネマティック・コンサート

2月23日(土) 15:00開演・24日(日) 14:00開演 コンサートホール

詳細はP14へ



スクリーンに甦る不朽の名画と迫力の生演奏

1984年制作の映画『アマデウス』。作曲家サリエリが天才モーツァルトに抱く、憧れと嫉妬、復讐心、葛藤や苦悩を克明に描いた、映画史上に残る傑作だ。「アマデウス LIVE」は、スクリーンに映される映画『アマデウス』に合わせ、全編に流れるモーツァルトの名曲の数々を生演奏で味わえる迫力のコンサート。今回は、世界的に大成功を収めているこのシネマティック・コンサートを、東京芸術劇場の音響で味わえる絶好の機会となる。ダイナミックで美しい映像と、オーケストラと合唱団が奏でる圧倒的な音楽に身をゆだね、「モーツァルトの宇宙」を心ゆくまで楽しみたい。

指揮：辻博之 管弦楽：オーケストラ・アンサンブル金沢 合唱：アマデウス特別合唱団

【お問合せ】チケットスペース 03-3234-9999